

中秋の名月を見よう



天空が広がるうぶやまの高原は、厳しい残暑も終わり、秋の気配を感じさせる高原の涼しい風が吹いています。うぶやまの夜空には素晴らしい秋の星空が輝いています。

指導員コラム(天体情報・見どころ)

9月の星空情報の第3弾は秋の季節を彩る中秋の名月を見ようです。

2026年の中秋の名月は9月25日です。「中秋の名月」とは、太陽太陰暦の8月15日の夜に見える月のことです。中秋の名月を愛でる習慣は平安時代に中国から伝わったと言われています。日本では中秋の名月は農業の行事と結びつき、「芋名月」などと呼ばれることもあります。

(次ページへ続く)

観察対象



今年は9月25日が中秋の名月で、翌々日野27日が満月となり、名月と満月の日付が2日ずれています。太陽太陰暦では新月(朔)の瞬間を含む日が、その月の朔日(ついたち)になります。今年は9月11日(新月の瞬間は12時17分)が太陽太陰暦の8月1日なので、9月25日が太陽太陰暦の8月15日となります。一方、天文学的手身での満月(望)は、地球から見て太陽と反対方向になった瞬間の月のことで、満月の時刻は、9月27日01時49分です。中止祐の名月と満月の日付がずれることは、しばしば起こります。今回のように2日ずれるのは少々珍しいことです。

さらに、日本独自風習として、太陽太陰暦の9月13日の夜を「十三夜」と呼び、お月見が行われてきました。十三夜は「栗明月」「豆名月」と呼ばれたり、中秋の名月の「前の月」に対して「後(のちの月)」、中秋の名月と合わせて「二夜(ふたよ)の月」とも呼ばれたりします。2026年の十三夜は、10月23日です。